

3月16日

2021年
(令和3年)

火曜日
第19766号(日刊)
土、日曜・祝日は休刊

鉄鋼新聞

Japan Metal Daily

金属行人

超電導や熱核融合など未来を變える先端技術の開発案件で、非鉄金属関連の中小企業が活躍している。超電導は電力機器や分析装置の小型化・高性能化に資する技術。熱核融合は現行の原子力発電より環境負荷が小さい。共に材料に対し緻密な加工や厳密な配合が要求される分野。中小企業も培ってきた高度な技術を武器に挑んでいる▼電線導体を製造する明興双葉は物質・材料研究機構と共に超電導線材を開発している。電線導体は銅線をダイスで伸ばしたもので専業は中小企業を中心。同社は高度な伸線技術を生かしつつ専用ラボで開発を進め、ニオブ3錫製の極細線材の量産技術を確立した。外径50ミリの例がない細さで柔軟性を引き出し、格段に強い勝手を高めた▼鍛造・鍛造品などを手掛ける大和合金はフランスで建設中の国際熱核融合実験炉の炉壁に銅合金板の納入を目指す。成分や鍛造条件を緻密に制御し要求性能を実現。今月に入り供給条件のクリアを意味する包括契約を欧州の研究機関と結んだ▼明興双葉は広くアンテナを張り、新分野を開く開発に注力。大和合金は「未来を支えるプロジェクトの役に立てれば」(萩野源次郎社長)と高難易度の課題に取り組み。開発要素が多い案件への挑戦は日々の仕事の質も高め、競争力のさらなる強化にもつながるはずだ。